

西建協だより

351号

2023年10月



HPアドレス

西多摩土木遺産 「温故知新」第5回 羽村地区の発展と多摩川の水防

私ども西多摩建設業協会の協会員は代々、西多摩地域で数多くの公共事業のインフラ整備に関わってきました。そのため、西多摩地域のインフラについては、誰よりも熟知している集団ではないかという自負がございます。それを更に磨き上げ、地域貢献につなげていくことが必要であると考えています。先達の方々の事業をふりかえり、西多摩土木遺産として本紙面に記事掲載しております。西多摩土木遺産「温故知新」第5回目は、羽村地区協会員(株)島田組より、羽村地区の発展と多摩川の水害対策水防工事の歩みについての内容となります。

多摩川の水防対策

(株)島田組は、明治37年に初代の島田初太郎氏が土木建設業を個人創業が始まりとし、昭和29年に株式会社設立され、現在118年の創業年数となっております。



写真① 丸山下護岸並びに水制工補修風景 明治末期

写真①は、大正時代の多摩川羽村取水堰上流の丸山下護岸並び水制工補修風景です。当初は、東京府の水道部(現東京都水道局)の仕事で、材料は役所支給、手間請けの工事が大半だったようです。

羽村取水堰では、自然の流れが蛇籠(じやかご)や杵、投渡堰(なげわたしせき)によって誘導され、取水口から玉川上水へ取り込まれています。蛇籠や牛杵、三角杵といった水流をコントロールする工作物は、川の流れを変え、上水の水位を一定に保つよう工夫されています。

投渡堰は、投渡木(なぎ)と呼ばれる丸太を横に渡し、そこへそれより細い丸太や木の枝、砂利などをあてがって作ってあります。大水のときは、取水口へ水が集まり過ぎて水門や土手を壊してしまうので、この投渡木を外して堰を取り払い、水を多摩川に流すことで上水を守りました。



写真② 「大正土手」築堤

写真②の作業は、堤防築堤風景(大正3年)です。この場所は、羽村取水堰上流の多摩川ベリ一帯で根掘前といい、羽村市内唯一の水田地帯です。明治末期、二回にわたる洪水で田畑が水没したことから、東京市(当時)が、大正3年に本格的な護岸工事に着手、同12年に一本杉前護岸工事を完成させ、この地域の水防態勢が整備されました。

川岸段丘据の作業道(農道、現在市道)が自然堤防になります。最下流の台地内にある根掘前水田以外には、何もない河原で、築堤には現地河川の玉石を活用して、採取し積上げたそうです。造られた堤防は、大正時代という事で、「大正土手」と呼ばれるようになりましたが、平成6年に新たに改修工事が行われました。桜並木が一新され、市民の散歩コースとしても親しまれています。



写真③ 堰下橋下部工事



写真④ 橋脚コンクリート打設状況

写真③、④は、羽村取水堰下流の堰下橋下部工事です。(昭和53年3月)橋脚は5基建造し、多摩川を横断して、右岸の羽村地区(清流地区)に行く人道橋の下部工事です。

昔から、多摩川を横断する仮設橋はあったようですが、台風、大雨等で流されたり、崩壊してしまったりしていたそうです。現在でも人道橋としてありますが、緊急時は車両が通れる構造になっているようです。写真④ではコンクリート打設状況ですが、



羽村地区の発展

この当時は、コンクリートポンプ車が無かったようでホッパーでの打設を行っています。クレーンの性能も今ほどではないので、結構な作業時間が掛かったと思われます。

写真⑤ 橋下部完成

写真⑥ 見造り完成



砂利穴などがありました。続いての写真は、羽村市緑ヶ丘4丁目11番にあります、富士見公園(現在のS&Dスポーツパーク富士見)の造成工事です。この公園は昭和46年4月に開園した公園になります。

この公園は、48,201平方メートル広さでテニスクラウンド各種等各種施設が整う公園となっております。現在も、市民の健康増進に活用されており、市民の憩いの場となっております。(2面につき)



写真⑦ 公園見造り完成

写真⑤は市内の道路造成の様子、区画整理に伴い新たな道路が造成されています。写真⑥は、東京都道29号立川青梅線(新奥多摩街道)川崎2丁目付近になります。この道路も都市計画に基づき、新たに新設された道路です。現在も立川方面より青梅に向う重要な道路として機能しております。

今回の取材は、羽村市内の発展に数多く携わってきた記録を辿り、これからもますますの西多摩地区のインフラの整備維持に向けて、地元の期待にこたえられる地元建設業集団として成長を考える機会と感じました。

結びに、今回の取材にご協力をいただきました(株)島田組、代表取締役社長 島田弘道氏には紙面を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



写真⑥道路造成
東京都道 29号
立川青梅線(新奥多摩街道)



写真⑤(羽村市緑ヶ丘)
市内道路造成の様子

(1面より)
つづいては、市内の道路造成工事紹介です。

感電災害を防ぐために (移動式クレーン・コンクリート圧送車等をご使用される方)

今般、令和5年8月以降に建設作業現場にて感電事故多数発生しております。
各種事業に携わる、協会員、賛助会員の皆さまに置かれましたは、今一度の安全対策の徹底並びに、作業員への周知をお願い致します。協会ホームページに詳細を掲載いたしますのでご確認よろしく願い致します。

送電線付近で工事を行う皆さまへ
安全に作業をしていただくために、施工前に作業内容・工法・使用重機の確認など、施工される方と打合せをさせていただきますので、事前にご連絡をお願いします。
連絡先
東電グループ
タワーライン・ソリューション(株)多摩営業所
TEL 042-533-3502
FAX 042-533-3503

配電線付近で工事を行う皆さまへ
安全に作業をしていただくために、施工前に防護管の取り付けをお願い致します。
東電タウンプランニング(株)TTP コールセンター
TEL 03-6630-9577

あっ危ない!!

お近くの東京電力パワーグリッドへ
電線の付近で移動式クレーン、圧送車等を使用するときは、必ずお近くの東京電力パワーグリッドへ連絡をお願いします。
(その1本の電線が、事故・災害を防ぎます)

電線(配電線)に接触すると
車体やワイヤーなどを伝わって電気が流れ、感電してしまいます

電線(送電線)に接近すると
電線に近づいただけで放電が起き、電気が流れ、感電してしまいます

電線の近くで作業をされる場合には感電をさけるために
●電力会社と作業計画の事前打ち合わせを行うこと
●関係作業員に対し、感電の危険性と作業標準を周知徹底させること
●電線に対して、安全な離隔距離を保つこと
●監視責任者を配置すること
●危険を防止するための囲いを設けること
●当該電線路に絶縁用防護管を装着すること

◆そこで東京電力パワーグリッドでは移動式クレーン、圧送車等を使用される作業される皆様方に
●クレーン、圧送車等と電線の間などどのような危険が潜んでいるのか
●具体的にどのように感電災害を防ぐか
について作業場所に向い、お打ち合わせを行い、感電災害の防止に協力させていただきます。

※当社からのお便りに、ご協力いただけない場合には、所轄の労働基準監督署に連絡させていただくことがあります。

作業員の感電災害・停電事故を引起こします

9月事業計画

- 1日 道路啓開協定業者の自主的出動・緊急巡回訓練
- 14日 広報委員会350号編集
- 15日 事業委員会
- 15日 災害対策安全委員会
- 15日 総務委員会
- 19日 理事会
- 22日 建災防 西多摩分会 全国労働衛生週間説明会

10月事業計画

- 10日 広報委員会351号編集
- 12日 災害対策安全委員会
- 13日 事業委員会
- 16日 総務委員会
- 17日 理事会
- 21日 西建協 親睦BBQ大会

日建学院 青梅認定校
合格のための受験対策講座
2023年度 開講講座のご案内

1級土木 施工管理技士
一次 3月中旬～ 毎週火・木(夜間) ¥280,000(税込 ¥308,000)
二次 7月中旬～ 毎週月・水(夜間) ¥110,000(税込 ¥121,000)

1級建築 施工管理技士
一次 2月中旬～ 毎週火・木(夜間) ¥280,000(税込 ¥308,000)

2級土木 施工管理技士
2022年度 前期一次検定 合格率100%
前期一次 3月中旬～ 毎週月・水(夜間) ¥190,000(税込 ¥209,000)
後期一次・二次 6月中旬～ 毎週月・水(夜間) ¥250,000(税込 ¥275,000)

2級建築 施工管理技士
2022年度 前期一次検定 合格率100%
前期一次 3月中旬～ 毎週月・水(夜間) ¥140,000(税込 ¥154,000)
後期一次・二次 8月中旬～ 毎週月・水(夜間) ¥200,000(税込 ¥220,000)

給水装置 工事主任技術者
8月上旬開講 毎週火・木(夜間) ¥220,000(税込 ¥242,000)

宅地建物 取引士
4月中旬開講 毎週水(昼間) ¥280,000(税込 ¥308,000)

2023年も受験対策は日建学院におまかせください!

詳細は随時ご説明いたします。お気軽にお問い合わせください。
青梅認定校(西建協) 0428-22-6245 石川
日建学院 立川校 090-4171-6169 高橋かおり